2018年度 修了

アトピー性皮膚炎患者の語り
― 病と付き合い生きていく ―

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
臨床心理学領域
杉山　諒子

アトピー性皮膚炎について医学的研究や患者のパーソナリティに関する研究が行われているが、現在でも確固たる原因は分かっていない。患者側から見たアトピー性皮膚炎の症状や病の捉え方を知ることがアトピー性皮膚炎についての理解を深めるために必要なのではないかと考え、本研究の目的とした。アトピー性皮膚炎患者を対象とし、語り合い法を用いた非構造化面接を行い、その発話資料についてカテゴリー分析と個別の語りにかかわるディスコース分析を行った（能智,2011)。語りはクラインマン（1996）による病い・疾患・病気の3つの観点に分け記述した。結果として【絶対的な理由のなさ】に関するカテゴリー関連図が生成された。絶対的な原因がないことによって、体質であるという認識やかゆくて普通だという認識が生じるが、症状がある程度治まる寛解期を経験することが、症状の理由を考えるきっかけとなることもあった。症状と距離が取れる寛解期があることが、症状とのつき合い方を考える上で重要な役割を果たしていることが示唆された。